

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月12日

上場取引所 東

上場会社名 旭有機材工業株式会社

コード番号 4216 URL <http://www.asahi-yukizai.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 佐次 洋一

問合せ先責任者 (役職名) 総務部長

(氏名) 岡本 忠久

TEL 03-3256-2451

四半期報告書提出予定日 平成21年11月13日

配当支払開始予定日

平成21年12月7日

(百万円未満四捨五入)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	13,367	△30.1	△1,080	—	△1,019	—	△712	—
21年3月期第2四半期	19,117	—	437	—	887	—	△250	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	△7.29	—
21年3月期第2四半期	△2.56	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	50,791	40,131	78.9	410.37
21年3月期	54,446	40,506	74.3	414.13

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 40,098百万円 21年3月期 40,467百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	5.00	—	1.00	6.00
22年3月期	—	3.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	3.00	6.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,000	△15.1	△600	—	△600	—	△400	—	△4.09

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第2四半期 99,002,000株 21年3月期 99,002,000株

② 期末自己株式数 22年3月期第2四半期 1,291,202株 21年3月期 1,286,411株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第2四半期 97,712,479株 21年3月期第2四半期 97,732,237株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点において合理点であると判断するデータに基づいて作成しておりますが、様々な不確定要素が内在しているため、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料の3ページを参照してください。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、中国を中心とした新興国で、生産の回復や景気持ち直しの動きが見られたものの、先進国の景気低迷から欧州向け輸出は回復せず、国内においても円高基調が定着し、また設備投資が大幅な減少のまま低迷するなど、依然として厳しい状況が続いております。

このような事業環境下で、当社グループは、中国においては生産販売体制を強化し、国内においては人員合理化や営業組織強化に努めてまいりましたが、国内自動車生産や国内民間設備投資等の当社の主要市場において需要が回復しないことから、大幅な減収減益となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は13,367百万円(前年同期比30.1%減)、営業損失は1,080百万円(前年同期の営業利益は437百万円)、経常損失は1,019百万円(前年同期の経常利益は887百万円)、四半期純損失は712百万円(前年同期の四半期純損失は250百万円)となりました。

事業部門別の概況は次のとおりであります。

①【管材システム事業部門】

世界景気の急変により前年後半に製造業においては大型設備投資の中止や延期が相次ぎましたが、当第2四半期連結累計期間においてもなお立ち直りの兆しが見られず、主力の配管材料製品の販売数量は大きく前年同期を下回りました。また、主要原料価格は上昇傾向にありますが、市況低迷による価格競争が激化し、売値に反映できず収益を圧迫しました。

一方、Dymatrixシリーズは、新たにシール性と耐久性を兼ね備えた高性能商品を上市して製品ラインナップを強化し、更にこれらを組み合わせたユニット化製品の販売に注力して販売数量を伸ばし、前年同期の売上げを上回りました。また、電子機器向け洗浄装置を製造するエーオーシーテクノ(株)では、太陽電池生産設備向けの受注が収益に貢献し業績が回復しました。

このような中で、製造部門においては設備投資の精査等の設備コストの削減や、仕入在庫削減等の調達コストの抑制、成形精度向上による加工・組立工程の省力化等のコストダウン施策を実施し、販売部門及び間接部門においては、組織の統合による業務効率化と経費削減を図りました。しかしながら、販売数量の大幅な減少や度重なる主原料の値上がり等がそれらを上回り、大幅な減益となりました。

以上の結果、当事業部門の売上高は9,496百万円(前年同期比24.5%減)、営業損失は869百万円(前年同期の営業利益は370百万円)となりました。

なお、中国上海市に昨年10月に設立した樹脂製配管材料製造・販売会社の『旭有機材閥門設備(上海)有限公司』は、生産体制が整い8月から本格的に稼働を始めました。

②【樹脂事業部】

主力の鋳物用樹脂及びレジンコーテッドサンド(RCS)は、主要顧客である自動車産業の国内生産が極めて低水準で推移したため、前年に対し売上高が大きく落ち込みました。

電子材料用樹脂については、液晶等の電子関連製品の生産の底入れにより、販売数量に回復が見られましたが、前年には及ばず、また販売価格が下がり、利益も前年同期を下回りました。

このほか、成形材料は主として自動車関連用途の落ち込みにより、一般工業用樹脂は建材や耐火物用途向け等需要が縮小したため、売上高が減少しました。

主要原料価格はほぼ安定して推移しましたが、これらの販売数量減少が大きく収益を圧迫しました。

それらの結果、当事業部門の売上高は3,872百万円(前年同期比40.9%減)、営業損失は211百万円(前年同期の営業利益は67百万円)となりました。

なお、新製品として、本年8月1日に全くフロンを使わずに高断熱性能を発揮する現場発泡断熱システム『ゼロフロン®ER』を上市しました。また、鋳物用途としては、複数の高機能を併せ持つ多機能性樹脂『オクトパス』を投入しました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間末の資産は50,791百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,655百万円減少しました。これは受取手形及び売掛金などの流動資産が減少したことによるものであります。

負債は10,660百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,280百万円減少しました。これは主に短期借入金の減少によるものです。

純資産は40,131百万円となり、前連結会計年度末に比べ375百万円減少しました。これはその他有価証券評価差額金の増加などによる評価換算差額等の増加がありましたが、四半期純損失による株主資本の減少が上回ったことによるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、最近の業績動向等を踏まえ、平成21年8月6日に公表しました通期業績予想を修正いたしました。

なお、当該予想に関する詳細につきましては、本日公表の「平成22年3月期第2四半期累計期間の業績予想値と実績値との差異ならびに通期業績予想値の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

1 一般債権の貸倒見積高の算定方法

前連結会計年度末に算定した貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

2 棚卸資産の評価方法

棚卸資産の簿価切下げに関して、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価格を見積り、簿価切下げを行なう方法によっております。

3 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。ただし、経営環境等、又は、一時差異等の発生状況に著しい変化が認められる場合は、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングに当該著しい変化の影響を加味したものを利用する方法によっております。

4 未実現損益の消去

四半期連結会計期間末在庫高に占める当該棚卸資産の金額及び当該取引に係る損益率を合理的に見積って計算しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,456	3,332
受取手形及び売掛金	9,505	12,100
有価証券	—	8
たな卸資産	6,502	6,716
その他	1,384	1,439
貸倒引当金	△51	△65
流動資産合計	20,796	23,531
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,073	6,067
その他(純額)	8,766	9,023
有形固定資産合計	14,840	15,091
無形固定資産		
	416	530
投資その他の資産		
投資有価証券	10,671	10,484
その他	4,154	4,895
貸倒引当金	△86	△84
投資その他の資産合計	14,739	15,295
固定資産合計	29,995	30,915
資産合計	50,791	54,446
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,083	5,746
短期借入金	500	2,723
その他	2,161	2,365
流動負債合計	7,744	10,834
固定負債		
長期借入金	—	132
退職給付引当金	1,434	1,393
役員退職慰労引当金	251	234
その他	1,231	1,346
固定負債合計	2,916	3,106
負債合計	10,660	13,940
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	8,479	8,480
利益剰余金	27,232	28,042
自己株式	△548	△547
株主資本合計	40,164	40,975
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	78	△246
為替換算調整勘定	△143	△261
評価・換算差額等合計	△66	△508
少数株主持分	33	39
純資産合計	40,131	40,506
負債純資産合計	50,791	54,446

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	19,117	13,367
売上原価	13,477	9,948
売上総利益	5,640	3,419
販売費及び一般管理費	5,203	4,499
営業利益又は営業損失(△)	437	△1,080
営業外収益		
受取利息	98	58
受取配当金	268	150
持分法による投資利益	16	—
為替差益	—	5
その他	98	40
営業外収益合計	480	253
営業外費用		
支払利息	16	13
持分法による投資損失	—	13
複合金融商品評価損	—	154
為替差損	8	—
その他	7	11
営業外費用合計	30	192
経常利益又は経常損失(△)	887	△1,019
特別利益		
貸倒引当金戻入額	17	12
その他	6	—
特別利益合計	23	12
特別損失		
固定資産除売却損	11	9
投資有価証券評価損	1,312	—
その他	0	0
特別損失合計	1,323	9
税金等調整前四半期純損失(△)	△413	△1,016
法人税等	△161	△298
少数株主損失(△)	△2	△6
四半期純損失(△)	△250	△712

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

	管材システム 事業(百万円)	樹脂事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	12,569	6,548	19,117	—	19,117
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	12,569	6,548	19,117	—	19,117
営業利益	370	67	437	—	437

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	管材システム 事業(百万円)	樹脂事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	9,496	3,872	13,367	—	13,367
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	9,496	3,872	13,367	—	13,367
営業損失(△)	△ 869	△ 211	△ 1,080	—	△ 1,080

(注) 1 事業区分の方法

製品の種類、性質、製造方法、販売方法等類似性、損益集計区分及び関連資産等に照らし、事業区分を行なっております。

2 各事業の主要製品

事業区分	主要製品
管材システム事業	プラスチック製バルブ、パイプ、継手、フランジ、ガスケット、汚泥改質機構、電気透析脱塩装置、配管工事等のエンジニアリング、半導体関連機器の治工具洗浄装置等
樹脂事業	フェノール樹脂（鋳物用、発泡用、建材用、電子材料用、一般工業用等）、レジンコーテッドサンド、フェノール樹脂成形材料、ジアリルフタレート樹脂成形材料等

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	中国 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	17,079	1,894	145	19,117	—	19,117
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	731	—	—	731	(731)	—
計	17,809	1,894	145	19,848	(731)	19,117
営業利益又は営業損失(△)	337	117	△ 7	447	(10)	437

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	中国 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	11,835	1,402	130	13,367	—	13,367
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	419	—	34	453	(453)	—
計	12,254	1,402	164	13,820	(453)	13,367
営業利益又は営業損失(△)	△ 997	32	△ 106	△ 1,071	(9)	△ 1,080

【海外売上高】

前第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

	北米	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	1,728	787	2,514
II 連結売上高(百万円)			19,117
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	9.0	4.1	13.2

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	北米	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	1,404	611	2,015
II 連結売上高(百万円)			13,367
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	10.5	4.6	15.1

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。
 2 本国以外の区分に属する主な国又は地域
 (1) 北米・・・米国、カナダ
 (2) その他の地域・・・上記以外の欧州、中南米、アジア等の地域
 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

- (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
 該当事項はありません。